

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	小児喘息重症度分布と治療の経年推移に関する多施設調査			
② 実施予定期間	2018年10月1日以降で各施設で倫理委員会で承認された日から2019年9月30日			
③ 対象患者	④の対象期間中に当院を受診された喘息患者さん			
④ 対象期間	2018年10月29日から2018年11月4日			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院、別添参照			
⑥ 対象診療科	小児科			
⑦ 研究責任者	氏名	長谷川 俊史	所属	山口大学大学院医学系研究科 小児科学講座
⑧ 使用する情報	年齢、外来・入院別、性別、発作頻度、治療ステップ、過去1か月のテオフィリン経口投与、過去1か月の長時間作用型 $\beta 2$ 刺激薬、過去1か月の経口ステロイド投与、過去1か月の吸入ステロイド、過去1か月のロイコトリエン受容体拮抗薬の使用状況。 治療ステップ、発作頻度については小児気管支喘息治療・管理ガイドライン（JPGL）2012に従います。			
⑨ 研究の概要	<p>小児気管支喘息は、この20年間で大きく変化した小児慢性疾患の1つであり、喘息発作死、救急受診、緊急入院、長期入院患者数は全て大きく減少し、治療の場は、入院治療から外来治療に移行しました。こうした背景には、吸入ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬などの抗炎症治療薬の役割、治療管理ガイドラインの普及が大きいことは世界的に評価されています。日本小児アレルギー学会疫学委員会では、経年的に、同一の信頼できる喘息専門医療機関における小児気管支喘息患者の喘息重症度分布、ステロイド依存性患児数（割合）の動向を知り、喘息治療の診療活動の検討に役立てることを目的として、2006年より調査を続けてきました。今回2018年度同じも調査を行い、変遷を知ることが目的としています。</p> <p>日本小児アレルギー学会疫学委員会委員長（東京都立小児総合医療センター アレルギー科 赤澤 晃）の所属施設を中央施設とします。当院では、調査表にそって、診療録より必要な項目を抽出します。調査終了後は、調査表をレターパックにて日本小児アレルギー学会疫学委員会事務局に送付します。</p>			

	調査表から、主要評価項目である発作頻度の各年齢における割合、副次的評価項目である年齢別治療の割合・吸入ステロイド使用率／種類／投与量・各薬剤の年齢別使用割合・各項目に関して過去の調査との比較を記述的に解析します。		
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2019年3月27日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	日本小児アレルギー学会		
⑮ 研究の資金源	日本小児アレルギー学会より支出されます。		
⑯ 利益相反	ありません。		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 小児科 担当者：脇口 宏之		
	電話	0836-22-2258	FAX 0836-22-2258